地歴公民（日史･世史･[地理]･政経･倫理）　北海道大学　総合入試【文系】、学部入試【文】

＜全体分析＞

試験時間　90分

解答形式

客観式23個、記述式23個、論述式11題（1行×2、2行×3、3行×3、4行×2、5行×1、 計30行）

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・[変化なし]・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・[変化なし]・やや難化・難化）

昨年に比べ、客観式が２個、記述式が８個増加したものの、論述式が４題（6行）減少したうえ、描図問題（昨年１題）がなくなったため、全体としての分量は昨年とほぼ同じである。全体的な難易度も大きく変わらないため、昨年同様、受験生は時間配分に苦労したと思われる。

出題の特徴や昨年との変更点

統計や地図を用いた出題は例年通りであるが、1999年以降毎年出題されていた地形図に関連する問題が今年は見られなかった。また、2021年度の入試改革から毎年４問ずつ出題されていた「正しい（または適当でない）ものをすべて選べ」という多答の問題が、今年は１問しか見られなかった。

その他トピックス

2025年度北大入試オープンの[3]で、オセアニアやインドネシアを扱った。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
[1]	客観式 記述式 論述式	農業と食料	問１はいずれも基本である。問３スペインなどで遺伝子組み換え作物が栽培されている。問４フードマイレージ＝食料の輸送量×輸送距離から考えよう。	標準
[2]	客観式 記述式 論述式	オセアニア	問１ｅの条約名は難しい。問２・問３・問５の論述問題は基本的であり、高得点を狙いたい。問４アボリジナルは、現在は都市で生活するものが多い。	標準
[3]	客観式 記述式 論述式	北ヨーロッパ	問１の論述問題は頻出であり、満点を目指したい。問４・問５・問６の選択問題はいずれも容易であり、全問正解したい。問７ｂは何を入れたらよいか迷う。	標準
[4]	客観式 記述式 論述式	インドネシア経済	問１・問２・問４の短答問題、問３・問６Ｙの選択問題で差がついたと思われる。問５の論述問題は、キーワードの使い方が難しい。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

1. 客観式や記述式がどれだけできるかが得点差のカギになると思われるので、教科書や共通テスト（センター試験）の過去問などで基本的知識を確実に習得しておくこと。
2. 50～100字程度の論述が多く出題されるので、過去問などを利用して各テーマをコンパクトにまとめられる論述力を身につけておこう。
3. 統計や地名に関する問題が頻出しており、細かな統計や地名を押さえるとともに、統計の持つ意味を理解する学習が求められる。
4. 地図を利用した問題が多く、図を描かせる問題もみられるので、白地図を使った学習を行うとよい。また、地形図や地図に関する出題も多いので、実際に地形図や地図を利用して慣れるようにしよう。

© 河合塾　2025年